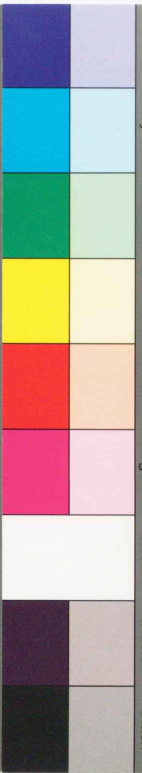


Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

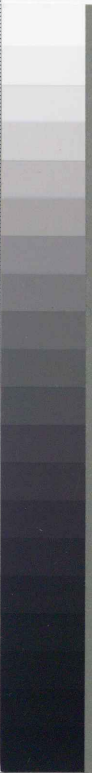


Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

日本一ノ... 中山道... 各務野を西へ



訪ねてみよう
中山道鶴沼宿
— 各務野を西へ —

訪ねてみよう中山道輪沼宿

各務野を西へ



目次

- ①坊の塚古墳
- ②津島神社・皆楽座
- ③愛宕神社
- ④おがせ街道とおがせ池
- ⑤山の前一里塚と播隆上人碑
- ⑥炉畑遺跡(県指定史跡)

- ⑦広野河事件と長者屋敷
- ⑧六軒一里塚と竹林寺
- ⑨各務野
- ⑩長塚節の歌碑
- ⑪ねずみ小僧次郎吉碑
- ⑫播隆上人名号碑

- ⑬新境川の百十郎桜
- ⑭日吉神社とげえる祭り
- ⑮手力雄神社
- ⑯瑞眼寺(ずいげんじ)
- ⑰浜見塚
- ⑱梅村屋跡

- ⑲新加納一里塚・立場
- ⑳新加納の道標
- ㉑泰瑞山法光寺
- ㉒過光山善休寺
- ㉓少林寺と旗本坪内氏
- ㉔このシリーズも三年目へ

訪ねてみよう中山道鶉沼宿 (各務野を西へ)



中山道鶉沼宿ボランティアガイド

② 津島神社・皆楽座

村人全員で農村歌舞伎を楽しむため鶉沼羽場の津島神社境内に建てられた劇場である。創建は明治十六年説が有力で二十四年の濃尾地震により完全に倒壊したため、三十一年に再建されたとされる。舞台正面を本殿に向けて構え、規模は間口八間半、奥行き五間と十分な広さを誇る。舞台には直径二十尺の回り舞台・囃子座・一対の大石柱・奥楽屋が設置され、舞台上部には竹を縄で格子状に組んだ

ブドウ棚があった。地下には石垣壁に囲まれた高さ二層の奈落も完備された本格的な歌舞伎舞台である。また外部の大棟の獅子口瓦・妻飾りの熊懸魚(かぶらげぎよ)・彫刻された虹梁・前庇・持ち送りなどは、この地域に特有な伝統的意匠として長年継承されてきたものである。現存する村国座及び廃絶された手力雄神社や三ツ池神明社の舞台にも共通して見られるデザインである。

訪ねてみよう中山道鶉沼宿 (各務野から西へ)



中山道鶉沼宿ボランティアガイド

① 坊の塚古墳

衣裳塚古墳の南西約三百尺、羽場町五丁目地内に小山がある。それが坊の塚古墳で、前方後円墳としては県内二番目に大きい。全長百二十尺、後円部は直径七十二尺、高さ十尺、前方部は幅六十六尺、高さ七八尺ある。石室内からは石の斧や勾玉、白玉などが出土している。この古墳についてこんな話が伝えられている。昔、村人がこの塚を掘り起こそうとしたところカマ先が古墳の

石にあたり火花を出した。その飛火で付近の家が燃え上がり、折からの強風で村全体が焼けてしまった」と。盛り土をした墳丘の後円部の頂上から埴輪(はにわ)のかげらや土師器(はじき)の破片が出土している。墳丘の頂上で死者の魂を弔ったり、新しい首長のお祝いをしたものと考えられているが詳しいことは分かっていない。後円部の東側には幅十六尺の堀の跡がある。

訪ねてみよう中山道鶺沼宿 (各務野を西へ)



④ おがせ街道と
おがせ池
中山道鶺沼宿ボランティアガイド

各務おがせ町から岐阜市北一色の約十二キロ区間を、おがせ街道と呼んでいる。古くは奈良、室町時代から物資の輸送に使われていた道である。

また幕末の元治元年武田耕雲斎率いる水戸天狗党が尊皇攘夷の志に燃える千人近い兵士と中山道の西上を阻まれ、芥見、高富へと進んだ道でもある。

街道の名の由来になるおがせ池は農業用のため池で、中山道国道21号「おがせ池交差

点の少し北にある。伝説として奈良時代一晩にして出来たと言われており、池の中には八大竜王を祭る社殿があり、池の端に参拝所がある。水神としてあがめられ、古くは雨乞いをしたと言われている。今も七月下旬にはおがせ池まつりが行われ、提灯屋台舟や花火など大変な賑わいをみせている。

池には、宝刀にまつわる昔話、鯉をめぐる秘話などいくつもの伝説も残っている。

訪ねてみよう中山道鶺沼宿 (各務野を西へ)



③ 愛宕神社
中山道鶺沼宿ボランティアガイド

鶺沼宿町屋敷を西に一キロ程歩くと右側に皆楽座の舞台が見えてくる。さらに百歩ほど先右側に常夜灯が立っている。そこでは、二間ほどの幅の参道が、ますます北に延びている。

昔はこの参道の入口に愛宕神社の石の鳥居があったが、その後、昭和に入ると百歩ほど北に移動された。

この鳥居をくぐると急な階段が続き、さらに愛宕山の中腹に進むと社がある。ここは火除けの神として靈験あ

らたかにして村人の信仰は申すまでもなく、徳川家康も必勝の神として敬い、関ヶ原に臨んだとされる愛宕神社である。

天下を平定するや、京都と江戸を結ぶ三街道の宿場に守護神として設置を指示された。鶺沼の庄屋、国定氏が京都愛宕神社より迦具豆知神を賜り、愛宕山に本殿を造営奉る。参勤交代の諸大名も中山道側の鳥居前を通過の際は足を止めて敬意を表したという。

訪ねてみよう中山道鶉沼宿

〈各務野を西へ〉



⑥ 炉畑遺跡
(県指定史跡)
中山道鶉沼宿ボランティアガイド

国道21号線と江南・関線との交差点から南へ一、五キロほど行くと炉畑遺跡がある。現地形は約三度の勾配で傾斜しており、凹み巾は、東西に伸びる水路を中心に南北両側とも約四十メートルである。この断面はおおむね江南・関線まで数百メートル、復元状況とあわせて当時の集落の様子が伺われる。

ここは昭和四十三年からの調査で十基の竪穴式住居が発見された五千年前の縄文集落遺跡で、当時の生活に使用された土器や石器が数多く出土している。出土した縄文土器の文様や形には東日本や西日本の影響が見られ、当時から広域的な交流があったことが分かる。住居の北側には食料などを保存する掘立柱建物(復元)、屋外には煮炊きをするのに使われたとされる共同の炉がある。文明の一隅を照らす遺産である。また、ここで見事に咲く桜は多くの人々を寄せ付けずにはおかない。

訪ねてみよう中山道鶉沼宿

〈各務野を西へ〉



⑤ 山の前一里塚と
播隆上人碑
中山道鶉沼宿ボランティアガイド

山の前一里塚は、とう峠一里塚から約四キロの山の前跨線橋の南側にあったが、今はない。昭和二十年の空襲でできた大穴を埋めるために取り壊したのだという。その代わり、播隆上人の名号碑が現在に残されている。

播隆上人は槍ヶ岳の開山を目指し、登頂に成功した山岳行者として知られている。名号碑には、「南無阿弥陀佛」の六文字が刻まれていた。その後、濃尾震災で倒壊した。さらに、第二次大戦で碑は爆撃に遭い、真ん中に被弾して二つに壊れてしまった。碑からは、天保四年(二八三三)との刻みのほか、「南無」と陀佛だけが読み取れる。

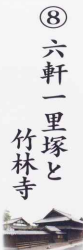
名号碑の前には、「播隆上人身代大師」と書かれた石仏が目立たない場所にひっそりと残されている。播隆上人は、槍ヶ岳へより多くの人を安全に導くための道しるべとして一里塚に石仏を置いたことでも知られている。

訪ねてみよう中山道鶉沼宿

(各務野を西へ)



⑧ 六軒一里塚と
竹林寺
旧中山道六軒一里塚跡



一里塚とは、一里(約四^リマ)おきに街道の両側に塚を築き、松や榎などの樹木を植え、旅人の目印としたものである。

ここ六軒の一里塚は明治維新後、宿駅制度が廃止されるに及んで削りとられ、畑地などとなり、今は跡形もなくなつた。六軒茶屋とよばれた立湯(休憩所)の東にあつた一里塚で、松が植えられていたといわれている。地名六軒は、江戸時代中頃の開拓当時の家数から

の通称号である。現在は名鉄六軒駅の南にある信号を東へ、約二百^リの所にある竹林寺前を通る中山道の北側に市教育委員会の建てた標柱があるばかりである。

佛国山竹林寺は、元禄十三年(一七〇〇年)竹林上人の開基にして、本尊は明治維新のとき廃仏毀釈(きしやく)を憂いて、東濃の地から法衣(ほうえ)に包まれてこの地に逃れ、当寺に迎えられたと伝えられている。

訪ねてみよう中山道鶉沼宿

(各務野を西へ)



⑦ 広野河事件と
長者屋敷
中山道鶉沼宿ボランティアガイド



古代より、木曾川は濃尾平野の扇状地を美濃・尾張の二つの国に分けてきた。洪水のたびに氾濫し流路を変えてきたこの大川は、時代や場所によつて鶉沼川・広野河・尾張河・尾張川などと呼ばれた。それまで美濃側へ流れていた広野河が、中州の堆積で、尾張側へ流路を変えた。

貞観七年(八六五)尾張介は、中央政府を動かし、元の流れに復元する工事を始めた。翌年、工事が完成する

直前に各務郡大領・各務勝吉雄と厚見郡大領各務勝吉宗らが歩騎兵七〇〇余人を率い、工事現場を急襲した。広野河事件である。

この事件は、美濃・尾張両国司だけでなく中央政府の認めた工事に対し在地豪族が真つ向から阻止したものである。中山道六軒茶屋からほど近い蘇原旭町の一角に長者屋敷といわれたところがあり、大正の初めまで居館址が残つていた。各務勝吉雄の館址と伝わる。

訪ねてみよう中山道鶺沼宿 (各務野を西へ)



中山道鶺沼宿ボランティアガイド

⑩ 長塚節の歌碑

浅茅生の
各務が原は
群れて刈る

林干草

真熊手にかく

各務野に大勢の人が
集まり、林(まぐさ)一
牛や馬の餌にする浅
茅生(あさじふ)一丈の
低いかやの群生を刈
りとり、その干し草を
熊手でかき集めている
といった風景である。

作者は長塚節(なが
つかたかし)で、この
歌の碑が中山道の北側
にある各務原市民公園
へ、名鉄市民公園駅の

方から入ったところに
建っている。

長塚は明治時代の歌
人・作家で歌誌アララ
ギや農民の生活を描い
た長編小説「王」など
で知られている。この
歌は明治三十八年中山
道を旅したとき、九月
十二日鶺沼から加納へ
行く途中、各務野で詠
んだものである。

当時の各務野はまだ
江戸時代とあまり変わ
っていないかった。この
歌碑を見ていると、当
時の地元の人々の生活
がしのばれる。

訪ねてみよう中山道鶺沼宿 (各務野を西へ)



中山道鶺沼宿ボランティアガイド

⑨ 各務野

各務原市の地形は大
まかにみて三つに分け
ることができる。北部
の山地・中央部の台地・
それに南部の木曾川沖
積層低地である。
中山道は鶺沼宿を過
ぎると西へ新加納の立
場まで、この台地を通
っている。ここが各務
野で道程は約十^{キロ}ある。
古くから美濃には三
つの野(原野)があった。
各務野は加茂野・関ヶ原
と並んで三つの野、す
なわち三野が美濃の語
源とも言われる野の一
つである。

各務野の様子を貞原
益軒は道中記・岐蘇路
の記に「この野に田畑
なし、ただ青草のみ生
ず」と書いているよう
に、耕地は全くた浅
茅(かや)と松の木が
延々と広がっている原
野であった。
家並みが続く現在か
らは全く想像もつかな
い原野の中の道を、旅
人はどのような思いで
たどったのであろうか。

ここは美濃

ここは各務野

きりぎりす

訪ねてみよう中山道鶉沼宿 (各務野を西へ)



中山道鶉沼宿ボランティアガイド

⑫ 播隆上人 名号碑



那加第二小学校南高山線南側に播隆上人名号碑はある。

上人の弟子たちが師

の徳を慕って建てたも

ので天保三年(一八三

二)と記されている。

碑の六字名号「南無阿

弥陀仏」の文字は上人

の筆跡を刻んだもので

あるという。

播隆上人は江戸時代

後期の念仏行者である。

越中に生まれ各地で念

仏修行を行ったのち檜

ヶ岳の登山道を開いた

僧として知られている。

天保の初め飛騨への
途路各務原に至り松林
の中に草庵を営み近在
の村人たちを教化され
たと言われている。
上人は「南無阿弥陀
仏」の六字の木版を大
事にしておられ、紙を
百枚ぐらい重ねた上か
らこの木版を押される
と不思議なことに文字
が全部の紙に写り、お
参りされた人にこのお
札を授けられたという。
お札のおかげで、重
病や不幸に遭うことが
できると評判になった
そうである。

訪ねてみよう中山道鶉沼宿 (各務野を西へ)



中山道鶉沼宿ボランティアガイド

⑪ ねずみ小僧 次郎吉碑



各務野に伝わる伝説
の一つに、義賊鼠小僧
次郎吉の話がある。

「いろは屋」という

茶屋に源助という主人

がいた。宿泊する旅人

を殺害しては金品を奪

うという悪人であった。

そうとは知らず、この

茶屋に一人の娘が宿泊

した。その娘を難から

救ったのが旅の僧であ

った。

後に娘は江戸の泰公

先で泥棒に入った鼠小

僧の顔を見て驚いた。

各務野で自分を助けて

のである。
娘は後に鼠小僧が処
刑されたことを知り、
墓を建てて弔ったとい
う。この話を記念して
碑が建てられた。
当初は中山道沿いに
あったが、岐阜大学の
前身である岐阜高等農
林学校が大正十二年に
創立された時に移され
て、現在は各務原市民
公園の北、名鉄とJR
の線路に挟まれた林の
中に「いろは茶屋犠牲
者供養碑」と播隆上人
の「南無阿弥陀仏碑」
と並んで建っている。

訪ねてみよう中山道鶉沼宿 《各務野を西へ》



中山道鶉沼宿ボランティアガイド

⑭ 日吉神社と げえろ祭り

神社の祭神は大山咋神（くいのかみ）と呼ばれ大津総本宮日吉神社の分社である。家内安全や農業など産業の振興にご利益をもつ山ノ神として崇拝されている。

境内の拝殿の前にはこま犬ならぬ石造りのこま蛙（かえる）が奉納されている。伝承によると、いつの頃からか大きな大きなひき蛙が大声を上げ池から夜はい出してきては村人にならずらするようになった。困り果てた村人

腹が減って悪さをすの दौरानと初午の日、池の前にごちそうを山のように積み上げた。その後時々池に食べ物を入れていた。そのうちにいたずらがなくなつた。それはかりか池にお願いすると雨を降らせたり、病人の家の門口に葉も届けてくれたりした。人々は「福蛙と呼んだ」。

毎年初午の日になるとげえろ祭りが行われ、拾った餅を食べると無病息災でいられたという。

訪ねてみよう中山道鶉沼宿 《各務野を西へ》



中山道鶉沼宿ボランティアガイド

⑬ 新境川の 百十郎桜

鶉沼宿から西へ約二里（八^キ）各務原市民公園の西を流れる新境川の堤防沿いに見事な桜並木が二^キにわたつて続いている。

この桜並木は、昭和六年地元稲葉郡大島村出身の歌舞伎役者市川百十郎が村国座で歌舞伎公演を行った際、同じ年に完成した境川放水路（新境川）の工事で亡くなった人の供養にと、堤の両側に千二百本の吉野桜（ソメイヨシノ）の苗木を寄付し植樹した。

後に桜の名所として地元の人に親しまれるようになったが、太平洋戦争や戦後の物資不足で、薪や炭に対する目的で伐採され最終的に残ったのは数十本程度である。再び桜並木に復活させようと昭和三十八年各務原市発足を記念して植樹された。その功績をたたえ、市川百十郎の名をとって「百十郎」と名付けられ、桜の季節には二十万人の花見客でぎわい、桜の名所として知られている。

訪ねてみよう中山道鶯宿 (各務野を西へ)



⑬ 瑞眼寺
(ずいげんじ)
中山道鶯宿ボランティアガイド

かつて新加納村の洞築林には、「極楽寺」と号する臨済宗妙心寺派の古刹(こさつ)があったとされており、本尊は聖観世音菩薩である。江戸時代の享保年間(一七一六)頃までは有名無実の衰微した寺であったよつである。享保十三年中山道を西上してきた晦堂玄隆和尚は、極楽寺の荒れた姿を見て、旗本坪内家六代目領主定堅に再興を願い出て、新加納の杉山勘助と議し、俗弟林茂教の資材助けを

得一字を再建した。翌年には寺号を玉鳳山「瑞眼寺」と改め現在に至る。七代目住職の球輪は、近隣の村々の子弟に読み書きを教え、寺子屋を開き常に三千人を下らない盛況ぶりだったと言われている。現在の寺は明治二十四年の濃尾大震災で崩壊し後に建築される。

寺宝は「平鐘(享保二十一年)」「坪内伊豆守肖像軸(一幅)」「各務郡新加納村古地図」である。また、現在は十代橋本光宗住職である。

訪ねてみよう中山道鶯宿 (各務野を西へ)



⑭ 手力雄神社
中山道鶯宿ボランティアガイド

新加納一里塚から北西へ一・三^{km}ほどの所に勝負の神様で名高い手力雄神社がある。

本殿は、流れ造りの檜皮(ひわだ)ぶきで、創建は六世紀末ころである。中里を支配していた豪族が、山の中腹に盤座をまつたのが始まりで祭神は手力雄命、手力雄神である。

本殿の梁(はり)の東側に雌雄の龍がからめられているが、これは龍が夜な夜な抜け出し付近の田畑を荒らすのを防ぐためと言い伝え

で残る。境内の裏手には小内墳が二基あり、多くの重要文化財が残る。

永禄十年(一五六七)織田信長公が当社社で稲葉山城攻めを祈願。その戦勝後には各務原近里千三百町歩を社領に付し、宝物などを寄進したといわれている。信長公が戦勝祈願したことから今日では勝ち運開運の神として必勝祈願の参拝者でにぎわう。ちなみに例祭は毎年四月二十八日、二十九日である。

訪ねてみよう中山道鶺沼宿 (各務野を西へ)



中山道鶺沼宿ボランティアガイド

⑱ 梅村屋跡

新加納一里塚のすぐそばに、立場たては茶屋梅村屋跡がある。立場は、宿場と宿場の間にあり、人足や旅人などが休息するため茶屋などが設けられたところであり、梅村屋は、新加納の立場の中心的な存在であった。梅村屋は、茶菓のほかに、「香堯茶屋」として、飯・そば・副食物など煮て売っていた。さらに、腹痛によく効く「せんき妙薬」の製造販売も始め、その看板が現存している。

また、旗本坪内氏の知行地の中にあり、坪内氏の接待所や、村役人の寄り合いの場にもした。幕府などからの「御達し」を承ったりする場ともなっていた。幕末にかけ旅人が多くなり「間(あい)の宿」と呼ばれ、小休本陣・旅籠なども兼ねた。皇女和宮の小休所を仰せつかり、約二百七両の莫大な費用をかけて修繕普請をしたが、濃尾地震により倒壊した。その後再建され、明治三十九年廃業した。

訪ねてみよう中山道鶺沼宿 (各務野を西へ)



中山道鶺沼宿ボランティアガイド

⑲ 浜見塚

那加浜見町一丁目内の小字地名である。各務原台地の西端部で目の前に平坦部を展望できる位置にある。遠い昔、濃尾平野が海であった頃この地が海岸線だったので浜の見える台地との意味から名付けられたらしい。「塚」については、付近に古墳が多いことから付けられたともいわれ、瑞眼寺地内の北西隅には「史跡浜見塚一号古墳群」の立て札と円形古墳がある。また、海上七里の渡し

を隔てて赤坂(大垣)の男と天山の娘の悲恋物語も伝えられている。月に一度、闇夜に浜見塚の灯明を目印に舟で逢瀬(おうちせ)を重ねていたがある夜灯明が消えていた。娘は、もう男が心変わりをしたと早合点して「灯明目当てにきたものをなせに今宵は消えている」こんなうらみの言葉を残して海へ身を投げたという。今は、海もなくなつて広い田畑だが、ただ浜見という地名だけは残っている。

訪ねてみよう中山道鶴沼宿 (各務野を西へ)



中山道鶴沼宿ボランティアガイド

⑳ 新加納の道標



道しるべとは、道路を通行する人の便宜を図るため方向や行く先、距離などを示し、路傍に立てた標示物で多くは石柱が用いられた。主な街道の分岐点には、必ず道しるべが立つっており太陽の位置から推定する以外に方法を知るすべのなかつた昔の旅人にとっては、重要な存在であった。ここ新加納の道しるべは高さ九十センチ程で交通事故に遭ったのか途中で折れ、鉄の支柱と鉢巻で補修されている。

北側には、石木畷路東側には右京道、南側には南かき松」と記されているが、設置年代の記載はない。

昭和の時代になって一里塚跡の東付近から西北に向かって新道が開通。クランクしていた枡形はカットされ、通行する人がめっきり少なくなり、道しるべも忘れられた存在となつてしまっている。

路傍に立つ小さな石柱ではあるが、街道の歴史を見続けてきた貴重な文化遺産である。

訪ねてみよう中山道鶴沼宿 (各務野を西へ)



中山道鶴沼宿ボランティアガイド

⑲ 新加納一里塚・立場



関ヶ原の戦いで勝利を収めた家康は、支配体制確立のため主要街道の整備事業を行った。東海道の裏街道として、京都と江戸を結ぶ幹線道路である中山道で、鶴沼宿と加納宿の距離は、四里十町(約十七キロ)と長く、これほどの長距離にも拘らず宿駅の設置がなかったのは、各務原台地が当時は広漠な原野であったためと考えられる。

江戸時代の宿場は、原則として道中奉行の管轄内であり、主要街道などで次の宿場町までが遠く、また途中に峠のような難所がある場合その難所に休憩施設として設けられたものが立場といわれる。

この立場が発展し大きな集落を形成し、宿屋などが設けられたのが間の宿(あいのしゆく)という。

間の宿・新加納は鶴沼宿へ東に二里二十町、加納宿へは一里三十六町の場所に位置し、旗本坪内氏の陣や所在地として栄えた。

訪ねてみよう中山道鶉沼宿

(各務野を西へ)



中山道鶉沼宿ボランティアガイド

22 遇光山

善休寺

善休寺は、新加納一里塚から二百ほど西にあり現在では浄土真宗大谷派であるが、もとは天台宗の光暁坊という寺院であった。五代目住職が親鸞の感化を受け鎌倉時代に改宗したという。その後慶長年間に本願寺十二世教如が現在の本堂裏手に新加納御坊（東別院）を建立したが、程なく岐阜に移転、その折に「善休寺」と改名した。

善休寺の門や本堂の軒瓦は三つ葉葵の紋入りであるが、これは尾張藩主が各務野へ狩りに来た折、休泊所にしたことから紋の使用を許されたという。またその昔には織田信長の休泊所にもなった。

京の尼門跡本光院の帰依も厚く本尊宮殿や菊花紋入りの品物、三本筋入りの筋翫の寄付も受けている。

本堂は、大正十一年の建立て、本尊阿弥陀如来が二体あることは珍しい。昔からの庭木や石を生かした築山のある境内も見所である。

訪ねてみよう中山道鶉沼宿

(各務野を西へ)



中山道鶉沼宿ボランティアガイド

21 泰瑞山

法光寺

各務原台地の西部に位置する。江戸時代に少林寺三世の瑞泉寺屋天和尚が、少林寺より移住してきて、屋天和尚を開山、坪内氏四代定長を開基として、臨濟妙心寺派法光寺として開興された。現在でも少林寺中興の祖體道和尚から屋天和尚へ贈られた「屋天」という直筆の掛け軸がある。

法光寺の門前は、地藏堂と観音堂がある。地藏堂の地藏は明和九年（一七七二）十一月の銘があり、観音堂には文化元年五月の銘のある如意輪観音がまつられている。境内の南側には、自然石でできた歴代住職の墓所がある。一番南にあるのが屋天和尚の墓所である。

八代住職の舜州宗育和尚（俗名佐藤宗直）は教育に対し、自ら、師匠となり十、二十人の子弟に寺小屋で教えを授けていた。寺小屋は明治五年（一八七二）学制が發布され、学校教育が始まるまで、庶民にとって大切な教育機関であった。

訪ねてみよう中山道鶴沼宿 《各務野を西へ》



中山道鶴沼宿ボランティアガイド

②4 このシリーズも
三年目へ

訪ねてみよう中山道鶴沼宿第二部は、昨年四月「各務野を西へ」というサブタイトルの下、鶴沼宿の外れから中山道とその周辺を新加納まで案内させていただきました。

読者の皆さん、続けて読んでいただけましたでしょうか。

さて、市内には今まで紹介させていたたいた以外にも、由緒ある神社・仏閣や史跡など数多くの文化財が残っています。

そこで四月からは第一部を「市内全域を巡って」と題して、中山道沿いを外れたところにある歴史遺産などを紹介します。

これからの案内は、市の東端にある貞照寺・川上別荘晩松園から西へ川島町まで向かいます。

私たちガイドも二十六年になりました。このメンバーが分担して執筆します。ご期待ください。

それぞれの想い宿場は春がすみ

訪ねてみよう中山道鶴沼宿 《各務野を西へ》



中山道鶴沼宿ボランティアガイド

②3 少林寺と
旗本坪内氏

中国に有名な少林寺という寺がある。達磨（だま）大師が修行し、悟りを開いたという寺である。

坪内氏は徳川氏から旗本として六千五百石の領地を与えられ、この寺を菩提寺とし、厚く保護した。少林寺は近隣の村々で疫病がはやれば、大般若経を誦経し疫病退散を祈りたりしたため今も人々の信仰を集めている。また、落雷よけに「雷の手」が代々まつられており、近くの小学生が見学に訪れている。

新加納にある少林寺は、この達磨大師にあやかって命名した寺である。明応八年（一四九九）にこの地域の豪族薄田祐真が祖母の居室を改装し、僧の東陽英朝を招いて開いた。英朝は京都の大徳寺、妙心寺、犬山の瑞泉寺に住寺した高僧である。織田信長の美濃攻略の際に多くが消失したが、

方
は
て
ま
の
コ
ノ
道
路
召
宿
の
新
加
納
と
鶴
沼
宿

中山道について

中山道は古代から東西をつなぐ重要な道であった東山道を元に、江戸時代に五街道の一つとして整備されました。全長は約534kmあり、宿場は板橋から守山まで67宿(東海道と合流する草津・大津を含めると69宿)が設置されており、岐阜県内には17宿がありました。

太平洋側を通る東海道とともに江戸と京を結ぶ主要な街道で、木曾路を通ることから木曾街道などともいわれています。中山道は「木曾の棧、太田の渡し、碓氷峠が無くばよい」とうたわれる難所をはじめ険しい山間部を抜ける起伏の多い道でした。しかし、河川の増水による川止め等の障害が多かった東海道に比べると、予定通りの通行が可能でサブリマール利点から、利用価値の高い街道でした。

310281241



各務原市図書館

鶴沼宿と新加納

鶴沼宿は、中山道69次のうち江戸から京に向かって52番目の宿場でした。東の太田宿まで2里(約8km)、西の新加納宿まで4里10町(約17km)の位置にありました。宿場の町並みは東西7町半8間(約840m)あり、ほぼ中央を横切る大安寺川で東町と西町に分かれます。

鶴沼宿から新加納宿までは、中山道でも2番目の長丁場でした。旅人の休憩などのために設けられたのが間の宿(あいのしゅく)の新加納立場(各務原市の西端)です。規模は宿場ほどではありませんが、枳形や一里塚跡、神社やお寺など昔の名残を見ることができます。

22

執筆・編集：中山道鶴沼宿ボランティアガイドの会 ■発行：各務原市観光協会

*本誌は平成23年4月～同24年3月の中日各務原市民ニュースに掲載された記事を編集したものです。